

■ 2020年度の事業活動の総括と2021年度の展望

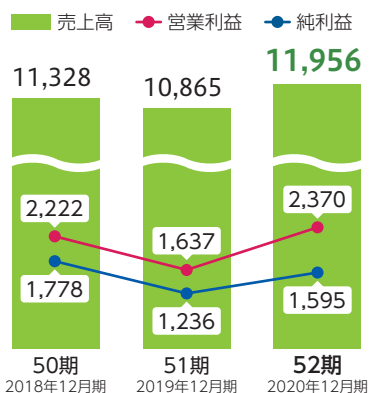
事業活動を通じた持続的な成長を実現

2020年度の事業活動の総括

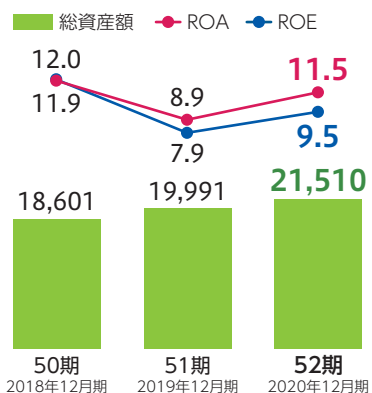
2020年度(2020年1月1日から2020年12月31日)を振り返ると、売上高が119億56百万円、営業利益は23億70百万円となり、過去最高収益となりました。これは、新型コロナウイルス感染症(以下、感染症)の拡大を契機にオンライン化が急速に進展したことに連動して、サーバーやパソコン、タブレット端末の需要が大きく増加し、関連製品が好調に推移したためです。一方でスマートフォンは世界的に販売不振で、関連製品は低調でした。以前から注力しております「5G市場」につきましては、感染症の影響で進捗がやや遅れている印象です。しかしながら、当社グループの製品が少しずつ使われ始めており、今後の着実な成長に期待をしています。

連結財務データ

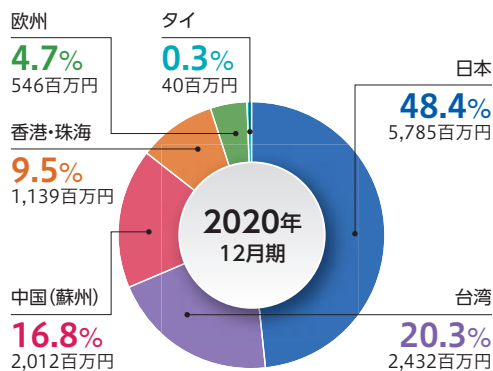
■ 売上高／営業利益／純利益(百万円)



■ 総資産額(百万円)／ROA(%)／ROE(%)



■ 地域セグメント別売上高比率(%)／売上高(百万円)



社会環境の変化

- IoT・AIの浸透・融合
- 5Gの普及
- DXの推進
- 自動運転の実用化
- 脱炭素社会

2021年度の展望

過去最高収益の更新



密着向上剤「CZシリーズ」のさらなる需要拡大

2021年度連結業績(見込み)

売上高	営業利益
136億円	31億円

エレクトロニクス業界は、IoT、AI、5G関連の本格的な取組みや旺盛な需要などを背景に市場の拡大が進むと考えております。しかしながら、半導体の強い需要によりその供給が逼迫する可能性もあり、先行きの動向を注視していく必要があります。このような外部環境が推測される中、当社グループでは、エレクトロニクス業界での当社関連市場の需要が増大すると考えております。特に「CZシリーズ」は半導体を搭載するパッケージ基板の拡大する需要を背景に売上の増加が見込まれます。主にディスプレイ向けに使用されている「EXEシリーズ」はスマートフォン向けHDI基板の採用の機会を確実にとらえてまいります。

以上を踏まえ、2021年度の当社グループの連結業績は、売上高は136億円(当期比13.7%増)、営業利益は31億円(同30.8%増)を見込んでいます。

(2021年7月現在)